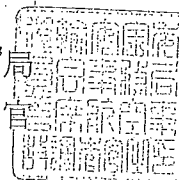


運委航 第120号

平成23年12月19日

国土交通省航空局
安全部運航安全課長 殿

運輸安全委員会事務局
首席航空事故調査官



航空安全情報の提供について

平成23年7月28日に発生した独立行政法人航空大学校所属JA4215（ビーチクラフト式A36型）の航空事故については、現在調査中ではありますが、乗組員に関する調査の過程で一部判明した事項を下記のとおりお知らせします。

記

1. 事故の概要

事故機は、平成23年7月28日09時11分、帯広空港を離陸し、帯広空港西側の訓練試験空域において訓練中、北海道河西郡芽室町の剣山山中に墜落した。同機には、機長のほか操縦練習生2名及び同大学校教官1名の合計4名が搭乗していたが、機長、操縦練習生1名及び同大学校教官の3名が死亡し、操縦練習生1名が重傷を負った。事故機は、大破し火災が発生した。

2. 情報提供

現在までの調査の結果、機長の航空身体検査に関し、次の事項が判明した。

(1) 機長の常用薬

機長は、アレルギー性鼻炎の治療に「オノンカプセル112.5mg」（ロイコトリエン受容体拮抗剤）を1日4カプセル、朝晩2回に分けて服用するよう帯広市内の病院で処方され常用していた。

(2) 機長の第1種航空身体検査証明書の交付

機長の第1種航空身体検査証明書は、平成23年1月24日、機長が「現在常用している医薬品（外用・睡眠薬を含む。）」の欄に「オノン」と記載した航空身体検査証明申請書の提出を受け、北海道厚生農業協同組合連合会帯広厚生病院の指定航空身体検査医により、同年1月31日、「適合」と判断され交付されていた。